

平成23年第2回 島原市行政評価委員会

日時 平成24年2月7日(火) 13時30分～

場所 杉谷公民館 大ホール

1. 委員出席数 委員9名中 7名出席

2. 議 事

委員長 本日は、第1回目の委員会において、グループごとに外部評価を行っていただいたご意見、ご提案などをもとに、島原市主要事業における事務事業評価について、報告書をどのようにするか、協議を行いたい。

まず事務局から前回行った外部評価の結果について、説明をお願いしたい。

事務局 (外部評価結果の説明)

政策企画 G (町内会・自治会運営費補助金資料の説明)

委員長 ただいまの説明について、何か質問はないか。

委 員 町内会・自治会の数の227と120の違いは。

政策企画 G 町内会・自治会の総数が227、決算書に公民館経費を計上している数が120である。また、自治公民館のなかには、複数の町内会・自治会で使用している場合もある。

委員長 公民館のあるなしではなく、すべての町内会・自治会が公民館経費を支出をしているが、公民館経費の費目を計上しているところが120なのか。

政策企画 G 自治公民館を独自で持っているか、共同で使用し、経費がかかっているところが120あるということである。

独自で自治公民館を持っている町内会・自治会は112である。

委 員 資料の①は役員の手当なのか。

政策企画 G 町内会・自治会の役員の手当である。

委員 旧島原市、有明町の合併後、調整を図った。運営費補助については、地域を盛り上げるために使うよう市も指導をして欲しい。

委員長 次に、行政評価外部評価報告書（案）について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 （行政評価外部評価報告書（案）の説明）

委員長 ただいまの説明について、何か質問はないか。

委員

- ・事業評価を行う前に内部で十分議論されていないのではないか。
- ・事業評価の目標もはっきりしない。
- ・大きな目標は分かっているが、詰めた議論が関係部署でされていない感じがする。大きな目標は分かるが、戦術がない。目標の指標が曖昧。
- ・他の自治体で成功している例、失敗している例を学んでやること。
- ・事業評価の問題より前にもっと大きな問題があるということ考えた方がいい。
- ・国際親善交流事業については、拡充することにこしたことはない。補助金を出して修学旅行を中国に変えたら、選考の問題も解決するのではないか。次年度にルート設定をし、行先を変えれば、この事業の目的は達成出来るのではないか。

委員 空き店舗等活用促進事業について、島原駅や大手門番など城下町の風情を残そうとしているのは分かるが、点在しているので分からない。5年か10年の期間で、デザイナーや専門家をお願いをしたらどうか。やはり観光と商業を結びつけないと少子高齢化のまちでは、商業の発展は望めない。また、個別の審査もいいが、大きな意見の出せる場所の設定が必要ではないか。

委員長 まちづくり全般のビジョンをしっかりと固めたうえで取り組むべきとの意見である。

委員 条件整備や予算面で大変だと思うが、グリーンツーリズムを利用した民泊による施設への補助などを今後検討が必要ではないか。

委員 島原半島の人口減少の記事があったが、将来、島原市は3万人を切るとの予測が出ていた。少子高齢化を迎えるのは間違いないこと、そのことを受け、従来どおりのまちづくり、中心市街地づくりをやっていていいのか。市の在り方や今後の計画、あるいは、民間、地域の経済界での今後の目標などを根本的に考え直す必要があるのではないか。

委員 事業評価をやる時は、個別の事業を単独で見るとよりも、類似の事業をまとめて一緒に見た方がいいのではないか。

委員長 他に質問はないか。

それでは、今の皆様のご意見を整理したい。

- ①地域全体のビジョンをはっきりさせること。それに基づかない限り、事業評価は難しいのではないか。
- ②特に留意する事項として、目的、目標と手段、あるいは、戦術、戦略、整合性等について、市役所内部でもっと詰めた議論が必要ではないか。また、町内会等との関係で、将来、町内会にどういう役割を担って欲しいのか。もちろん、町内会側のどういう役割を担いたいのかということも当然あると思う。市役所内部での議論と共に市役所外部での議論も必要である。そういう戦略、戦術をしっかりとさせること。
- ③民泊、グリーンツーリズム、観光、商業に関する意見。
- ④外部評価のやり方について、個別の事業だけでは見えないところがある。一定の目標に対して、それに繋がるような類似事業をひとまとめにして行うべき。

この意見に対して、何か意義などあるか。

委員 修学旅行は実現可能か。学習的にも価値があるのではないか。内部で検討を。

委員 ホームステイをするのか。

事務局 ホームステイではない。ホテルに宿泊し、現地の中学生と交流をする日程である。

委員 お互い交流をしたらいいのではないか。

委員長 そういう意味では姉妹都市提携をしていただいで、相互交流が深まればいいのではないか。

委員 内部評価、外部評価を行って、それぞれ評価が出ているが、いつからどのようになるのか。

事務局 位置付けとしては、1次より2次、2次よりも3次が上部の評価ということで考えている。7事業の結果については、平成24年度の当初予算に出来るだけ反映させたいと考えている。

委員 基本的にはそれでいいが、むしろ、より本質的な議論を早くやらないといけない。

委員 町内会・自治会活動について、旧島原市の町内会長で、合併後、市からの運営費補助が増えた理由を分かっていない人がいるので、市も町内会・自治会に対し、取り組んで欲しい具体的事例を提示して指導して欲しい。

委員 島原市特産品創出事業については、委員皆さんから様々な意見があったが、今回の評価を受けて改善をお願いしたい。

また、大会・会議等誘致奨励金についても、有効に使える島原市にプラスになるので、積極的に誘致を行って欲しい。

委員 自治会の役割について、昔は当然のようにみんな入っていた、入るのが当たり前であった。しかしながら、現在は、そうでない人もいる。長崎市は未加入者が増えてきている。今後どうするのかという議論をしていると思うが、市も町内会・自治会にお任せするだけでなく、本来どうあるべきだという議論が必要である。自治会に何を期待していくのかを市役所内部で識者も入れて議論をした方がいいのではないか。都市部はNPOとかいろいろあって、そちらに期待をし、自治会は連絡網的、親睦会的なイメージになりつつある。しかし、それだけでは、地域はまわっていかない。今後は、高齢者も増えてくる。社協と分担しながら、あるいは、連携しながらやっていくのが、これから重要になってくる。そこを1回議論したほうがいいのではないか。

この票の説明を聞いても自治会が何をやっているのか、十分把握もしていないのではないか。そもそも事業評価を行う際に実態さえも把握せずに評価してもしようがないのではないか。もう少し、今後自治会をどういう風に機能してもらうのかというために実態把握をすることが大事ではない

か。それがないまま、外部評価をしてくれといわれても出来ない。外部評価とは、内部評価で十分議論されたうえで、聞いてもらわないと実態が分からずに評価するのは非常に危ないので、そこをきちんと把握して欲しい。

委員 市の方でも、窓口で町内会加入を促進しているのか。島原市は加入率が低い。大村、諫早は多額の補助金を支出しているので加入率が高いし、市としても努力されている。市も加入率80%を目指して。町内会・自治会の加入促進に力を入れて欲しい。

また、ごみの回収についても、観光地でありながら、拠点回収ではない。これだけは、是非、改善しないといけない。

委員長 ある県内の自治体で協働を促進しようと、そのために行政側から協働出来るような事業を出してくれというような話をした時に、ほとんど出て来なかった。なぜかという、行政は仕事を放棄したと思われる。市民に投げるつもりかと言われるので出せない。また、海の物か山の物か分からないNPO法人と仕事は出来ない。とのことであった。ある種、役割分担の再構築の時期に来ているのではないか。町内会・自治会や一般市民、個人、企業等も含めて、今までの役割分担を見直す。見直す時には当然、島原市の次の時代の在り方を考えて、それに基づいた適切な役割分担をしながら、その中で評価を行っていく。というのが今日皆様からいただいたご意見だと考える。

他にご意見はないか。

なければ、いま皆様からいただいたご意見を踏まえて、報告書の内容等の修正を図っていきたいと思う。

今日いただいたご意見は、総論、各論で反映させていただいて、報告書の修正を行いたいと思う。

なお、時間的制約もあるので、報告書の文章表現、体裁等については、委員長と事務局で修正を行うということによろしいか。

(異議なしの声あり)

それでは議事を終了し、最後の「その他」ですが、事務局から何かありますか。

- 事務局
- ・市長への報告書提出について
2月中に市長へ提出いただく方向で（日程等は委員長と相談）
 - ・来年度の対象事業の抽出方法・進め方等
テーマをお伺いし、施策目標に対して関連した事業を括った形でご審議いただきたい。

（異議なしの声）

市長公室長 短期間で意見をまとめていただき、ありがたく思う。

報告書や意見を受け止めると、かなり手厳しいが、当然かなと思っている。市には市勢振興計画という基本的なプランがあり、それに向けて、それぞれの部署がそれぞれの事業をやっている。ご指摘のとおり、事業の連携や戦術が欠けているというご指摘があった。反省をしている。

また、町内会・自治会については、市民との協働ということで、今後、市だけで事業をやっていくのは限界があるということを確認している。当然、地域の核となるのは、町内会・自治会の皆さんであり、市民生活の向上等に向け、協働出来る事業をやっていければと考えている。内部的な事業については、内容を詰めて実施するのが基本であり、強化しないといけないと考えている。

そのうえで外部評価をお願いしたいと考えている。評価が目的ではなく、評価を次年度以降にどのように生かしていくかが目的であるので、皆様の意見を十分踏まえて取り組んでいきたい。

委員長 県下の市町での評価委員会に出席しているが、島原市は、いろいろ課題や問題は抱えつつも、3年に亘って継続されている。毎年、違った課題でやっており、県内でも進んだやり方だと思う。是非、委員皆様のご協力をいただきながら、一つ一つ課題をクリアしながら、いい評価委員会にしたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。